

第一本町区（山車）

2 番目に古い山車は、他の町区との友好的なライバル関係から生まれました。熊谷市の第二本町区が最初の神輿を 1891 年に東京から購入すると、第一本町区の住人たちは独自の神輿を作りました。天照大神（あまてらす）の子孫であると言われている初代神武天皇が、神輿の上には立っています。神武天皇の手には金の杖があり、その先には烏がとまっています。言い伝えによると、神武天皇は、熊野（現在の和歌山県）から大和（現在の奈良県）までの山道を、3 本脚の烏に導かれました。

山車の前方のまぐさと支柱には竜と神話上の鳥の彫刻が施されており、神輿の側面と後方の欄干には獅子の装飾が施されています。神輿の後方は緑色の幕で覆われており、竜と虎の戦いの様子が金色の糸で刺繍されています。世の中の力の均衡を象徴するものとして、伝統的な日本美術の比喻に一般的です。この神輿は 1898 年に建造されており、熊谷市有形民俗文化財に指定されています。